



元気いっぱい、笑顔いっぱい、活力みなぎる 朝二の子

朝霞第二小だより



【学校教育目標】 進んで学習する子(知) 仲良く助け合う子(徳) 健康で明るい子(体)

〒351-0007 朝霞市岡3丁目16番13号 TEL 048-461-0042 FAX 048-467-4735

E-mail 2shou@asaka-c.ed.jp ホームページ <http://www.asakadai2shou.city-asaka.ed.jp>

令和4年2月1日(2月号) 児童数 712名 (1/28現在)

よりよい習慣を身に付ける

- 四つ目の「間」 -
校長 谷井 喜信

暦の上ではまもなく立春を迎え、今年度も余すところ2ヶ月となりました。1年生が育てているチューリップが芽を出し、梅のつぼみも膨らんできたように感じられます。

さて、毎日のように新型コロナウイルスに関する報道が流れ、新規感染者が急増してきております。本校でもこれまでに2クラスが学級閉鎖となりました。急な対応で大変申し訳なく思っております。最近では、ステルスオミクロン株(亜種 BA2)への置き換わりにより、更なる感染拡大やピークアウトの時期が遅れるのではといった指摘もされております。このような状況を鑑み、今月に予定していました授業参観は中止とさせていただきます。一時は、子供達の一年間の成長の様子を録画で配信することも考えてはいましたが誠に残念です。なお、保護者会につきましては当初予定の日程で、オンライン(Zoom)での開催となりますのでよろしくお願いいたします。

【教育に関する3つの達成目標:「規律ある態度」】

内容	項目	達成目標	二小の平均(昨年との値)
けじめのある生活	時刻を守る	①集合時刻 登校時刻	92.0%(-1.2%)
		②授業開始時刻	92.6%(-3.2%)
	身の回り整理	③靴そろえ	86.5%(-1.2%)
		④整理整頓	75.0%(-0.5%)
礼儀正しく人と接する	挨拶や返事	⑤あいさつ	84.5%(+1.2%)
		⑥返事	91.2%(+0.9%)
	丁寧な言葉遣い	⑦丁寧な言葉遣い ⑧やさしい言葉遣い	88.2%(-1.6%) 90.5%(+0.2%)
約束やまじりを守る	学習のきまり	⑨学習準備	78.2%(-3.5%)
		⑩話を聞き発表する	86.0%(+1.9%)
	生活のきまり	⑪集団での態度	88.2%(+1.1%)
		⑫掃除や美化活動	96.3%(+1.8%)

左の表は、「規律ある態度」の結果を一覧表にまとめたものです。年度当初、全項目85%以上を数値目標に掲げていました。全体的には、「時刻を守る、丁寧な言葉遣い、生活のきまりを守る」項目がよい結果でした。一方、「④整理整頓、⑨学習準備、⑤あいさつ」については、引き続きの指導が必要です。よりよい生活・学習習慣を身に付けさせることはなかなか容易なことではないと改めて痛感しました。出来る所を認め励ましながら、今後も社会生活の基盤となるよりよい習慣が身に付くよう学校と家庭双方で粘り強く取り組んでまいりましょう。そして、一年間のまとめをしっかり行うことで、自信をつけて卒業・進級してほしいと思います。

学校では児童の豊かな心を育てるために、全教育活動を通して道徳教育を進めております。特に道徳の時間は各教科等における道徳教育を補充・深化・統合し、自己の生き方について考えを深める時間です。①自己を見つめる ②物事を多面的・多角的に考える ③道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てます。低学年における道徳の内容・項目は、A自分自身に関すること(善悪の判断、正直・誠実、節度・節制、個性の伸長、希望と勇気)、B人との関わりに関すること(親切・思いやり、感謝、礼儀、友情)、C集団や社会との関わりに関すること(規則の尊重、公正・公平、勤労、家族愛・家庭生活の充実、よりよい学校生活、伝統と文化の尊重、国際理解)、D生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること(生命の尊さ、自然愛護、感動・畏敬の念)と内容項目は多岐にわたっています。本校では、各学年の重点目標を定め、体験活動等を生かした道徳の時間の展開、教材等の工夫に努めています。目に止まった資料がありましたので以下に紹介します。現在、東京学芸大学特任教授・日本道徳教育学会会長の永田繁雄氏が、以前に執筆されたお話です。「時間・空間・仲間」、そして「手間」を大切にしたいものです。

子どもたちの世界に「三間(さんま)」が乏しくなったと言われるようになって久しい。「三間」とは「時間」と「空間」、そして「仲間」のことである。しかし、その三つが不足するうちに、四つ目の「間」も抜け落ち始めている。子どもが「手間」をかけるのが苦手になってきたと感じられるのである。

例えば、本を自由に選べる場面では、文字が多いお話の本より絵や写真の多い本を好む傾向が強くなってはいないだろうか。また、絵などの作品を手取り早く仕上げたがる傾向が見られないだろうか。ボタンやスイッチ一つで新しい画面や局面に気ままに移動することができるのであれば、わざわざ足腰を使って「手間ひま」をかけるのは面倒なことだと思うのは自然なことである。そのような「手作り」の楽しさや喜びを忘れさせるグッズに子どもの心が支配されすぎている。

「手間」を大切にするのは、じっくりと心と体を熟成させる「スローフード」でもある。心の教育も体験活動も、「手間」という「ゆとり」の中でこそ充実する。「手間」をかければ、個性が育ち、共感性が高まり、人間関係が育つ。それが将来、仕事を大切にしようとする意識へとつながる。

忘れてならないこと、それは、三つの「間」は大人が用意することができるが、実際に「手間」をかけて取り組むのは子ども自身もつと心と体の力によるしかないということだ。



【競書会】



【なわとびタイム】